

小樽市立病院における新型コロナウイルス感染症 集団発生の振り返りについて

小樽市立病院において令和2年8月18日に感染を確認し、10月2日に終息と判断した新型コロナウイルス感染症の集団感染については、その後も院内で保健所の協力なども得ながら調査を進めてまいりましたので、その内容について報告するものです。

【院内感染の概要】

(院内発生分)

感染者数 28名(職員15名 患者13名)

性別 職員 男性1名 女性14名

患者 男性2名 女性1名 非公表10名

※ 陽性を確認された職員、患者のうち約8割が1つの病棟に集中しており、患者だけに限定すると全員が1つの病棟にとどまっており、一定の範囲内での感染に限定されていたものです。

その他、当院を退院後に陽性確認された患者3名が当院のクラスター関連と認定されています。

【感染発生者の経過】

8月18日 A病棟職員が体調不良を訴えたため検査を実施したところ、陽性を確認

8月19日 同じ病棟の職員、入院患者などを検査したところ、職員6名、患者10名の陽性を確認

8月20日 B病棟職員1名の陽性を確認

8月21日 A病棟職員1名の陽性を確認

8月23日 患者1名の陽性を確認

8月25日 C病棟職員1名、A病棟職員1名の陽性を確認

8月26日 A病棟職員1名の陽性を確認

8月28日 C病棟職員1名の陽性を確認

8月31日 患者1名の陽性を確認

9月1日 医療技術職員1名の陽性を確認

9月14日 C病棟職員1名の陽性を確認

9月17日 患者1名の陽性を確認

【現地対策本部の設置】

今回の集団感染に対処するためには、当院だけではなく市、保健所を含めた全市的な対応が必要と判断し、8月20日、3者による現地対策本部を立ち上げた。

現地対策本部の運営にあたっては、北海道や国立感染症研究所、札幌医科大学の方々などの御支援、御指導をいただきながら、新型コロナウイルス感染症集団発生の収束に向けて取り組んだものです。

【感染拡大防止対応】

クラスター発生後、速やかに発生病棟の入院患者及び職員のPCR検査を進めるとともに、職員、委託業者を含む全職員のPCR検査の実施を決定し、8月29日までに検査を終了しました。

また、発生病棟を2週間閉鎖することとし、5階の2病棟全てを感染症病棟として使用することとしたものです。

まず、他病棟の入院患者の退院調整を行い、5階病棟入院患者を他病棟に移動させました。陽性の患者、職員が一方の病棟に入院し、濃厚接触者である陰性患者、退院基準を満たした陽性患者をもう一方の病棟に移し疑い患者として隔離しました。なお、陰性を確認していた発生病棟の職員及び病棟で業務を行っていたコメディカルについても2週間の自宅待機としたものです。

なお、北海道の協力により、適宜、札幌市内の病院への転院やホテルでの宿泊療養の手配が可能となり当院の負担が軽減されました。

【収束宣言】

当院における集団感染は、9月17日の陽性確認を最後に14日間新たな陽性者が発生しなかったことから、小樽市との連名により10月2日にクラスターの収束を宣言しました。

【クラスター発生要因の考察】

最大の要因は、標準予防策など感染対策に不徹底があったことではありますが、その他の要因として体調不良があっても休みづらい気持ちになる現状があったことや、体調不良状況の情報伝達の不備があったことがあげられます。

そのほか、高齢の患者の食事介助等でスタッフステーションにおける多数の

患者の密集があったことなどがあげられます。

【再びクラスターを発生させないために】

院内各部署で今後の感染対策のための標準予防策の徹底、休憩時間・休憩場所の分散化など細部にわたる改善点を実行するとともに、休憩室の仕切り板の設置など環境整備を進めております。

小樽市立病院は、感染症指定医療機関として引き続き新型コロナウイルス感染症患者の受け入れと治療に取り組むとともに、後志地方の基幹病院として高度医療を提供し、地域住民の皆様の信頼にお応えできるよう努めて参ります。

皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、当院クラスター収束に向けて多大なる御尽力、御協力を頂きました、北海道、国立感染症研究所、札幌医科大学に感謝申し上げます。

令和2年12月21日

小樽市立病院
院長 信野 祐一郎